【様式】

平成３０年度　学校マネジメントシート

学校名（三重県立四日市高等学校　）

1　目指す姿

(1) 目指す学校像		○遍く険しく、光輝く八稜星のごとく （八稜星）＝四高のシンボル ・ 多方面にわたって発展する若人の情熱を表現。 ・「八」は、画一を排し多様な価値観を大切にする懐の深さ、「稜」は高く険しき壁にぶつかっても、心を動かさず耐え忍び、努力で克服する堅忍不抜の心意気を表象。
(2)	育みたい児童生徒像	(1) 自主・自律の精神（学習面・生活面） (2) 幅広い視野（グローバル・マインドとシチズンシップ（市民性）） (3) 挨拶（相互に尊敬し合う態度）
	ありたい教職員像	○　勤務してやり甲斐があり、楽しい。 ○　教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化がある。

2　現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		＜生　徒＞ 学力の向上、進路保障、部活動や交友関係の充実、安心して過ごせる学級。 ＜保護者＞ 教員の学習指導力、進路指導力・対話力、人間関係の育成、安全安心な学校・学級。 ＜地　域＞ 学力の伸長、人格の形成、豊かな心、リーダーとしての人材の育成。リーディングハイスクール、トップ校としての進学実績。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		＜中学校＞ 四日市高校教員への指導力向上。 ＜予備校・学習塾＞ 情報交換や情報共有。 ＜地域社会＞ 本校との良きパートナーシップ。 人間教育育成全般への期待（文化行事、文化・運動クラブ団体等）。	＜大学・研究機関＞ 先生方の講義協力（大学出前授業等）。 ＜予備校・学習塾＞ 授業改善のための研修などによる協力。 情報交換や情報共有。 ＜地域社会＞ 各団体や地域と相互に自立した関係の樹立。 豊かな心の育成、健やかな体の育成。
(3) 前年度の学校関係者評価等		・これまでの SGH の取組の成果が着実に蓄積され、生徒の学びの質を高め、進路選択にも好影響をもたらしていることから、SGH の取組を経験した卒業生に対し、進学先等での伸展など、追跡調査からの効果検証を行い、次期へ深化、発展させていくことを期待する。 ・習熟度別講座や授業評価アンケートなど、授業改善への取組が継続的に行われ、探求する力を培う活動を充実させ、積極的に取り組む生徒を増やす一方で、様々な悩みを持つ生徒へのきめ細かな支援体制も継続・充実させていくことを期待する。 ・ＳＧＨと連携した人権教育も高く評価でき、継続・発展を期待する。	
(4) 現状と課題	教育活動	○本校は、１８９９年の創立以来、我が国及び国際社会において活躍する多くの人材を輩出しており、三重県を代表する進学校として、生徒、保護者及び県民から大きな期待が寄せられています。とりわけグローバル化や人口減少が進むなか、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む役割が求められています。 ○生徒の視点に立ち、生徒一人ひとりの個性と生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体）の育成を図るとともに、全ての生徒に卒業後も高度で優れた学問を学び続けうる質の高い「学力」を培う必要があります。 ○「文武両道」の校是のもと、学習の充実と活発な部活動を効率的、効果的に行っていますが、主体性・多様性・協働性を育むための取組への支援を含めた在り方について考察する必要があります。	

	学校運営等	○生徒一人ひとりが自らの在り方・生き方を確立できるよう、教員との十分な対話の機会を設けるとともに、引き続きスクールカウンセラー等外部人材とも連携し、教育相談体制の充実を図る必要があります。 ○教育活動への献身的な取組が教職員の過重労働を生む土壌となっていることから、業務の精選・重点化を図るとともに教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化を、より一層、醸成する必要があります。

3　中長期的な重点目標

教育活動	○スーパーグローバルハイスクール事業（ＳＧＨ事業）（平成２６年度～３０年度）に加え、スーパーサイエンスハイスクール事業（ＳＳＨ事業）（平成３０年～３４年度）を活用し、新しい高校教育の在り方を研究し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校として、その役割を果たします。 ○生徒が学力を高めることができる指導を充実させるとともに、探究的・主体的・対話的な学びについて研修を深め、本校独自の学習指導方法を活用し、継続して授業内容の充実に努めます。また、授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸張に努めます。 ○生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら同時に、市民性・社会性（シチズンシップ）を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い認め合う心で挨拶を交わす温かい組織風土を培います。
学校運営等	○生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上及びいじめや不登校の未然防止等を図り、生徒の視点に立った理想の学校、理想の学級集団づくりを進めます。 ○教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会、教員同士の授業見学等を充実して組織を活性化させ、教員の学習指導力と生徒指導力の両面を高めます。また、働き方改革にとりくみ、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け合う学校組織文化を醸成します。

4　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果（1 月末現在）	備考
SGH 事業における人材育成	**1**　SGH事業(※注)最終年を迎え、これまでの成果を最終報告としてまとめ、SGH事業後にその成果が継続できる基盤を確立します。 （※注）本校 SGH 事業の活動内容については、学校 HP をご確認ください。 【活動指標】５本柱の実践的研究 ① 総合的な学習の時間『グローバル・マインド』 ② 学校設定教科・科目『グローバル・リーダー学』 ③ グローバルアクション ④ 白熱英語講座 ⑤ 効果測定 **【成果指標】**SGH事業の実践的効果の検証と改善 **2**　海外フィールドワーク及び海外語学研修を安全かつ効果的に実施します。	**1** 【活動指標】 ①　1年生全員が各自課題設定に取り組んだ。また2年生全員が図書文献活用等により論文をまとめた。 ②　1 年生 143 名、2 年生 25 名合計 168 名が受講し、グローバル課題に関する専門家の講義を受けて知見を広めるとともに、海外フィールドワーク等に積極的に参加した。 ③　スーパープレゼンテーションや、地域清掃活動等の諸活動に取り組んだ。 ④　Ⅰ期 53 名、Ⅱ期 57 名の生徒が受講し、外国人大学教員の指導により、グローバル課題のテーマに英語で熱心に討論した。 ⑤　効果測定の分析結果を共有し、最終報告を行った。 **【成果指標】**5年間のSGH活動を集大成した報告書、及び本年度の論文を収録した論文集を作成した。 **2** **【活動指標】**海外フィールドワークには中国天	◎

	【活動指標】 生徒総計50名以上が参加できる海外研修の策定	津 12 名、カンボジア 12 名が参加。オーストラリア海外語学研修には 30 名参加。合計 54 名の生徒が海外研修に参加し、スーパープレゼンテーション等で成果を共有した。	
SSH 事業における人材育成	**1**　SSH事業の初年度として、事業全体がスムーズに運用できるよう校内体制を整え、基盤が確立できるように努めます。 **（※注）本校 SSH 事業の活動内容については、学校 HP をご確認ください。** 【活動指標】学校設定科目（SSH 学）の整備 ①　探究Ⅰ ②　探究Ⅱs、探究Ⅱa、探究Ⅱb、探究ⅡL ③　探究Ⅲ ④　科学総合Ⅰ、科学総合Ⅱ ⑤　論文英語 ⑥　グローバル・ヒューマン学 **【成果指標】**SSH事業の実践的効果の検証と改善 **2**　国内成果発表会への参加、海外フィールドワークの準備を効果的に推進します。 **【活動指標】** 生徒の国内発表（ポスターセッション）総計5回以上参加する。	**1** 【活動指標】 ①　1年生全員が探究Ⅰの授業を通じて、探究Ⅱで深める自分の研究テーマを検討した。 ②　本年度の１年生が来年度探究Ⅱをどのように選択するかについて議論を重ね、ガイダンスを通じて生徒に周知した。 ③　SSH 推進会議において本年度１年生が３年生で選択する準備として検討した。 ④　理科の教員が物理・化学・生物・地学の各分野を網羅した教科指導を行った。 ⑤　本年度１年生の文系選択者が来年度選択することになる論文英語の準備を行った。 ⑥　保健体育・家庭・地歴・公民の各教科が試行錯誤し、実際に授業を行いながら教科融合のあり方を模索した。 **【成果指標】**生徒アンケートを実施し、次年度の指導に役立てる。 **2** **【活動指標】**生徒の国内発表は5回参加。海外研修の準備として下見を行い、次年度実施に向けて準備中。	◎
学習指導力向上 授業の充実、及び学力向上 授業時間の確保	**1**　生徒が興味関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年2回実施し、「説明や発問等の仕方」「教材の準備や提示の仕方」「指導の工夫」等の視点別に教員が自己評価し、改善することにより、授業の質の向上を図ります。 **【活動指標】**授業改善アンケート年2回実施 **【成果指標】**視点別12項目平均点3以上（満点4点） **2**　習熟度講座、少人数講座等を実施し、理解や定着を図り、生徒の満足度を高めます。また、定期試験、実力試験、実力養成試験などの他に確認テストや宿題テストなどを実施し、個人及び学年集団の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行います。 **【活動指標】** 各試験の実施、補習授業等学力補充の実施、各学年の学力検討会議を年10回以上実施 **3**　授業時間を確保するため、年間通して計画的に実施するとともに、自習時間は時間割変更して対応します。 **【成果指標】**自習時間数ゼロ	**1** **【活動指標】**生徒からの授業評価「授業改善アンケート」を年2回（6月、12月）実施。授業担当者には科目別に視点別 12 項目結果をフィードバックして授業改善に活かしている。 **【成果指標】**12 項目平均点 3.44　（昨年 3.44）であった。 **2** **【活動指標】**学力検討会議を1学年<u>13 回</u>、2 学年 13 回、3 学年 11 回実施しており、学力分析・指導に努めている。2・3年生で国語、数学、英語の習熟度講座を開講している。アンケートで高い満足度が得られている。各試験を実施。確認テストは各教科・科目で適宜実施している。 **3** **【成果指標】**曜日や時限によって授業時間数が不均衡にならないように計画的に実施している。自習時間は、4時間（29 年度 12 時間、28 年度 12 時間、27 年度 41 時間）	◎

学級経営	**1**　アンケートや面談を実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的な学級集団の育成に取り組みます。 **【活動指標】**個人面談年間3回以上、アンケート1、2学年1回実施 **【成果指標】**学年修了時に全学級が満足型になる。	**1** **【活動指標】**個人面談は1学年4回、2学年4回、3学年4回実施した。学校行事等を通じて親和的なHR運営ができている。 **【成果指標】**QU（学級満足度）調査を実施し、1・2学年の全学級で満足型の結果であった。	◎
人権教育	**2**　SGH及びSSH事業の取組と連携して人権学習を実施し、人権に対する意識を高めます。 **【活動指標】**人権教育の観点を取り入れた授業、SGH講演会「人権講話」、人権学習の実施 **【成果指標】**学年修了時に全学級が満足型になる。	**2** **【活動指標】**人権教育推進計画をもとに人権講話や人権LHRを実施。 **【成果指標】**人権講話でのアンケートで90%に近い生徒が講話の内容に自分の在り方、生き方の参考になったと回答。	
生徒指導	**3**　生徒同士、教職員、外来者等に対して場面に応じた挨拶ができるスキルを身につけるために、生徒会役員、室長、運動・文化部の部長が核となった挨拶運動など、生徒のコミュニケーション能力向上につなげます。 **【活動指標】**生徒を主体とした挨拶推進運動年5週以上実施 **【成果指標】**学校関係者評価委評価「概ね達成できている」以上、授業公開日保護者アンケート「概ね達成できている」以上	**3** **【活動指標】**生徒会が中心となり、部活動や室長などの協力を得て挨拶運動5週以上実施。 **【成果指標】**授業公開保護者アンケート（5段階）では、上2段階が85%前後であった。	
読書推進	**4**　読書活動を推進することにより、生徒の視野を広げ、思考力を高め、想像力を豊かにし、人間形成を醸成します。また、幅広い資料提供を通じ、生徒一人ひとりの課題解決学習を支援します。 **【活動指標】**教科、学校行事、ＳＧＨ、ＳＳＨ等と連携した展示　回数：１０回以上	**4** **【活動指標】**教科や学年、SGH、SSH等と連携した展示企画1月末で15回実施。	

改善課題
・SGH事業が本年度で終了し、来年度2年目を迎えるSSH事業への事業内容を精選したうえでの継承をスムーズに行えるように、担当者を中心に検討を重ねる必要がある。 ・SSH事業の探究における活動や新学習指導要領への対応の中で、より主体的で、対話的な深い学びを実現するための授業改善等を図る必要がある。

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果（1月末現在）	備考
現状把握と組織改善	**1**　教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進めます。また各教科、科目指導計画の進捗状況調査を行い、学習指導の品質を整え、充実を図ります。また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握し、生徒の学力向上につなげます。 **【活動指標】** 教科会を教科毎に10回以上実施、進捗状	**1** **【活動指標】** ・各教科・科目でシラバス・学力向上の取組を作成し、情報の共有を行っている。 ・11月末に実施した進捗状況調査では、全教科で概ね予定通りであった。	※

	況調査の実施、全教員が他の教員の授業に年間1回以上参加してコメント提供。課題の質、量調査結果と学力向上の相関性について分析。成績順位別に任意抽出した生徒から聴き取り、実態を把握し、1学年は6、9月、2学年は6、11月に校長に報告し、改善につなげる。	・年2回の授業公開日には全教員が他の教員の授業に参加するように努めている。研究授業も実施した。 ・2年生学力検討委員会を通じて常に課題の質・量について検討してきた。成績上位者に対しては個々に聞き取りを行い、適切な課題を提示した。課題が滞ってきている生徒に対しても個々に対応した。	
教育相談	**2** いじめや体罰の未然防止や早期発見に努め、必要に応じて関係機関とも連携して、生徒一人ひとりの心のケアに努めます。 **【活動指標】** 生徒全員の個別面談年間2回、スクールカウンセラー等の校内外の専門家、教育相談担当者、養護教諭と学年会議によるケース会議(※注)の実施 **(※注) ケース会議とは、チームで子供を支える教育相談及び特別支援教育の会議** **【成果指標】** 長期欠席生徒数が前年度より減少、いじめ・体罰ゼロ	**2** **【活動指標】**生徒との個別相談を 1、2 学年 3 回、3 学年 5 回実施した。また保健、教育相談、学年を交えたケース会議にて、情報共有、対応方針の検討などを行い、連携して支援できた。 **【成果指標】**長期欠席生徒数は、1 年生・2 年生ともに昨年より若干増加した。特に2年生は 1 年次に欠席が少なく、順調であったが、様々な悩み等で休みがちになった生徒がいた。 いじめ認知2件、体罰ゼロ。早期発見早期対応することで、素早く解決できた。	◎
情報提供	**3** 保護者、生徒との希望を把握した上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性にあった進路を実現します。また、保護者に最新の進路情報を提供するとともに、受験への支援や理解を図ります。 **【活動指標】** 保護者面談、生徒個別面談、進路検討会議の実施	**3【活動指標】**3 学年は保護者面談 2 回、生徒個別面談 5 回、進路検討会議 4 回を実施。1,2 学年は保護者面談 1 回、生徒個別面談 3 回を実施。	
保護者連携	**4** 土曜学習会や課外授業(夏期講座含む)を充実させ、個に対応した指導を行います。 **【活動指標】** 土曜学習会および課外授業の実施 **【成果指標】** 3学年 11 月時点での第 1 志望校への出願率 70%以上	**4** **【活動指標】** <u>平日課外</u> 3年生(Ⅰ期):12 講座、493 名受講。 (Ⅱ期):15 講座、503 名受講。 (Ⅳ期):16 講座、420 名受講。 (Ⅴ期):13 講座、230 名受講。 2年生(Ⅰ期):6 講座、255 名受講。 (Ⅱ期):11 講座、275 名受講。 <u>夏期課外</u> 1年生:18 講座、1021 名受講。 2年生:18 講座、 688 名受講。 3年生:37 講座、1651 名受講。 <u>土曜学習会</u> 各学年で計画通り実施 **【成果指標】**3 学年 11 月時点での第 1 志望校への出願率 74%	

組織活性化 組織運営	**1**　進路主任を座長とする「学力向上戦略会議」(校長直轄)を定期的に開き、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。 **【活動指標】** 年間12回以上実施 **【成果指標】** 生徒一人ひとりが学年始めより学年修了時実施の同種の校外模試等において成績向上 **2**　各種面談、アンケート調査、ケース会議などの情報、知見をもとに主任会議や各種委員会を定期的に開催して情報共有を図るとともに、校務分掌や部活動の在り方等も含め、継続した学校経営改善に取り組みます。 **【活動指標】** 中間評価を実施、改善点の提案各委員会1項目以上提案	**1** **【活動指標】**「学力向上戦略会議」を 12 回実施した。 **【成果指標】** 各学年の課題解決に向けた取組の提案・現状の共有、次年度以降の戦略等を協議した。 **2** **【活動指標】** ・内規集の整理、見直しを実施し旧版を廃止してデータ化した内規集を文書管理においた。 ・来年度に向け校務分掌等改善を図り、3年後を見通した改革を行った。	※
働き方改革	**1**　働き方改革にとりくみ、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け合う学校組織文化を醸成します。 **【活動指標】**・一斉定時退校(月1日以上) ・部活動休養日設定(週 1 日以上) ・会議時間の短縮(60 分以内に終了) ・教員アンケートの実施(1 回) **【成果指標】・時間外労働時間の削減(月あたり3時間以上)** ・休暇取得の促進(暦年比1日以上取得) ・月80時間を超える時間外労働者を削減(延べ10人)	**1** **【活動指標】** ・一斉定時退校日は毎月1日設定し、ほぼ実現できた。 ・全部活動の土日どちらかの休養日設定を指示し、無理な場合に平日代休を設定させ、ほぼ実現できた。 ・企画委員会以外の会議は、ほぼ 60 分以内で終了できた。 ・「定数減に備えた校内体制のあり方」についてオフサイトミーティングを実施した。 **【成果指標】** ・時間外労働時間には前年比で変化が見られなかった。一層の工夫が必要。 ・1月末段階で休暇取得日数は一人あたり昨年比で2日以上増加した。 ・月 80 時間を超える時間外労働者数は増減が見られなかった。	

改善課題
・保護者への情報提供、連携等については一定進んできているが、今後は地域との連携が求められるため、新たな取り組みや対応が必要になってくると思われ、その準備をする必要がある。 ・働き方改革については、教員の理解を得ながらさらなる工夫をしないと効果が表れないので、一層の努力が必要である。

5　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・これまでの SGH の取組の成果が着実に蓄積され、生徒の学びの質を高め、進路選択にも好影響をもたらしていることから、成果を整理・分析し、引き続き SSH の取組へ深化させ、さらなる発展を期待する。特に、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進、および、大学や地域企業との連携型 PBL (Project Based Learning、Problem Based Learning) などを推し進めることが重要である。 ・授業評価アンケートなど、授業改善への取組が継続的に行われ、探求する力を培う活動を充実させていく一方で、様々な悩みを持つ生徒へのきめ細かな支援体制も継続・充実させていくことを期待する。特に、SNS 等のネットに関する諸問題には細心の注意が必要である。 ・教員の多忙となりがちな業務を精選し、量から質への転換を図るとともに、教育の質的向上に資することを希望する。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	SGH事業の成果や指導上の手法を大切に生かしながら、来年度2年目を迎えるSSH事業の充実を図るため、大学や地元企業など校外機関との連携を深める。 またSSH事業の中核をなす探究Ⅱの内容が充実するよう、担当者を中心に検討を重ね、さらにすべての教科において、より主体的で対話的な深い学びを実現するための授業改善等を図る。
学校運営についての改善策	SSH事業の充実のため校内体制を整備し、探究活動との関連の中で、地域との連携を重視した新たな取り組みを模索したい。 また、クラス減に対応した校内体制づくりを進める。